

## 編集後記

年初から能登半島地震をはじめ大変な出来事が続きました。読者のなかにもご自身やご関係者が被災されたり被害にあわれたりした方がおられるかもしれません。謹んでお見舞い申し上げます。

能登半島地震に対し、INPIT（インピット：独立行政法人工業所有権情報・研修館）を所管する特許庁では手続等で特別な措置を講じているほか、職員を被災自治体等に派遣する人的支援を継続しています。INPIT 石川県知財総合支援窓口は金沢市にあり被害軽微ということで1月4日から開けることができますが、月1回の出張相談窓口は輪島市と七尾市の1-2月分が中止となり、3月以降に開設できるかも執筆時点では未定です。基本インフラの一つである水道の復旧でさえ関係者の懸命の努力にもかかわらず令和6年4月以降になる地域もあると報道されていますので、現地の皆様のご苦勞はいかばかりかとお察しいたします。富山県や新潟県の知財総合支援窓口は通常どおりです。INPIT では知財相談・知財支援の窓口を開き続けるとともに、微力ですが個人的には寄付等自分にできることを続けていきます。

あらためまして読者の皆様、論文誌「特許研究」をお手に取っていただき、ありがとうございます。

本誌は、①我が国における産業財産権制度研究の重要性の理解促進、②同制度の基礎研究の活性化、③同制度に関する資料の解析・紹介、④学術的な研究発表の場の提供、を目的として昭和61年1月に第1号が特許庁から発行された論文誌です。平成16年10月にINPITへ移管され、平成17年3月末に第39号を発行してから紆余曲折がありながらも年2回の編集・発行を継続し、このたび第77号を発行することができました。前号で特許庁とINPITの発行号数が同数に並び、今号からはINPIT発行の号数のほうが多くなっていきます。価値ある「特許研究」をお届けできるよう、世阿弥のいう「時々の初心」を忘れずに特許研究室一丸となって取り組んで参ります。

今号では巻頭言を慶應義塾大学教授の石岡克俊先生にいただいております。石岡先生は経済法や知的財産法、消費者法といった領域で活動され、令和5年9月末までは慶應義塾大学産業研究所の所長を務めておられました。20年ほど前に指導いただいたときから繋がるご縁で巻頭言を執筆い

ただけたことを大変嬉しく思っております。

論文としては、上智大学教授の駒田泰士先生にネットワーク関連発明と属地主義について、神戸大学教授の前田健先生にサプライチェーンにおける標準必須特許の権利行使について、金城学院大学准教授の末宗達行先生に商標の剥離抹消行為の規制について、それぞれ執筆いただきました。いずれも現代の産業財産権制度における課題を鋭く論じていただいております。

判例評釈としては、福岡工業大学准教授の橘雄介先生に「リコー・トナーカートリッジ事件」について独禁法・特許法の両面から明快に解説いただいております。

情報欄には、内閣府政策統括官（経済安全保障担当）付参事官補佐の廣崎拓登様と特許庁総務部総務課課長補佐（特許出願非公開プロジェクト事務局長）の千本潤介様とに、特許出願非公開制度の概要について執筆いただきました。お二人とも特許の審査官経験を活かしつつ最前線で制度設計に尽力された実務者であり、令和6年5月1日の制度運用開始に向けて執筆時点での最新情報をいただいております。

ご多忙のなか充実した内容を提供いただいた執筆者の皆様に感謝申し上げます。

さて、INPITは令和6年度から第6期中期目標期間を迎えます。「知財経営支援の中核機関」として多様な取組を予定しておりますが、人材育成関係の取組のなかで読者の皆様におすすめできるものを一つあげるとすると「**知財マネジメントセミナー『リアルな最新事例で学ぶ！強い経営・次の一手～知って得する知財マネジメント～』**」<sup>1)</sup>がごございます。中小企業やスタートアップの方々、商工会議所の経営指導員といった支援者の方々、弁理士・弁護士・知的財産管理技能士等の専門家等が参加され、事例を題材にグループディスカッションを行います。グループディスカッションというとちょっと大変なのではと思われるかもしれませんが、知財が専門でない方でも議論ができるように教材や進行が工夫されています。

筆者も2回同席し、うち1回は実際にディスカッションに参加しましたが、実に多様な意見が聞けますし、事例ということもあってか議論が大変盛り上がり、3事例・3時間があっという間でした。1月開催セミナーのあるグループでは、中小企業役員、高校教諭、スタートアップ社員、地方経産局職員、INPIT職員といった経歴・年代も様々な顔ぶれが揃い、セミナー終了後に新たな人脈も

形成できていた様子でした。特許研究の読者の皆様は産業財産権に知見のある方が多いと思われませんが、現場では実際にどのようなことが起きているかを手軽に知る機会にもなると思います。令和6年度はリアルで全国10か所程度、オンラインで2回程度の開催を予定しております。いまのところ参加費無料ですので、お気軽にご参加いただけますと幸いです。

また、このセミナーの教材はINPITウェブサイト「**知財マネジメント人材育成教材の提供**」<sup>2)</sup>からダウンロードできます。学習者用の研修テキストだけではなく、議論の進め方等をまとめた講師用のティーチングノートや参考解も提供していますので、社内研修等に活用いただけます。大学院の演習で活用されている例もあります。第6期中に教材事例の追加も検討しておりますのでどうぞご期待ください。

このほかにも、特許庁・INPIT等の知見をeラーニングとして提供する「**IPePlat**」<sup>3)</sup>、高校生・高専生・大学生等を対象に応募を募り、優秀賞(特許30件、意匠30件)受賞者には弁理士の指導のもとで特許出願又は意匠登録出願を实践し、3月の表彰式ではノーベル化学賞受賞者の吉野彰選考委員長に会えるというかけがえのない体験を提供する「**パテントコンテスト・デザインパテントコンテスト**」<sup>4)</sup>、専門高校や高専のみならず普通科高校まで対象を拡大し、学校での知財学習に対し最大50万円までの活動経費とアドバイザーからのノウハウとを支援する「**知財力開発校支援事業**」<sup>5)</sup>及び、特許庁・INPITが保有する高度な専門性を活用した知的財産人材の研修プログラムを提供する企業・公的機関等の「**知財人材の育成研修**」<sup>6)</sup>を実施し、知財人材育成に取り組んで

おりますのでご活用ください。

知財トラブルを事前に防ぎ、ビジネスを守る動画「**スタートアップは突然に…**」<sup>7)</sup>もぜひ一度ご覧ください。知財トラブルによる悲劇を数分程度のショートドラマで非常にわかりやすく教えてくれます。

第77号を最後までお読みいただき、ありがとうございました。第78号についても論文誌「特許研究」に課された使命を意識し、意義ある発刊ができるように努めて参りますので引き続きご愛読いただけますと幸いです。

INPIT 人材開発統括監  
特許研究室長・監査室長  
本庄亮太郎

※本誌に関するご意見・ご要望がございましたらアンケートにてお寄せください。INPITウェブサイト内の「論文誌『特許研究』の編集・発刊」(<https://www.inpit.go.jp/jinzai/study/>)にてアンケートに回答いただけます。

#### 注)

- <sup>1)</sup> <https://ipms-seminar.inpit.go.jp/>
- <sup>2)</sup> [https://www.inpit.go.jp/jinzai/global/global\\_material.html](https://www.inpit.go.jp/jinzai/global/global_material.html)
- <sup>3)</sup> [https://ipeplat.inpit.go.jp/Elearning/View/Login/P\\_login.aspx](https://ipeplat.inpit.go.jp/Elearning/View/Login/P_login.aspx)
- <sup>4)</sup> <https://www.inpit.go.jp/patecon/index.html>
- <sup>5)</sup> <https://www.inpit.go.jp/jinzai/educate/chizairyoku/index.html>
- <sup>6)</sup> <https://www.inpit.go.jp/jinzai/index.html>
- <sup>7)</sup> <https://www.statotsu.inpit.go.jp/>

### 特許研究 PATENT STUDIES No. 77 (March 2024) ©

令和6年3月29日発行

編集・発行 独立行政法人工業所有権情報・研修館 特許研究室



〒105-6008

東京都港区虎ノ門4-3-1 城山トラストタワー8階

電話：03-3581-5092 FAX：03-5843-7693

HP (<http://www.inpit.go.jp/index.html>)

印刷所

株式会社まこと印刷

※落丁・乱丁本はお取り替え致します。